

寄生スル住まい

～ 家の本体はからっぽ。だから帰りたい ～

「寄生」が付いては外れ、「痕跡」を刻むことで、家は未完成のまま成長し続ける。

1 背景と問題提起

完成品住宅の限界(均質な街区の中で…)

1-1

従来の住宅
完成品として提供され、
均質化されてきた。

しかし

人が帰りたいと感じる住宅

子供の落書き 生活のシミや傷 余計に付け足した棚や庇
こうした「雑音や痕跡」が積み重なった場所

都市の住宅地では、更新の余地を失っている

1-2 哲学者ミシェル・セールの哲学

- ・セールは「ヘルメス」で「秩序はノイズから生まれる。」と説いた。
- ・「秩序＝正常／雑音＝妨害」という常識を逆転させた。
- ・秩序は例外であり、むしろ世界の大半は雑音＝カオスで満ちている。
- ・雑音は理性や秩序を壊すものではなく、秩序を成立させる前提条件

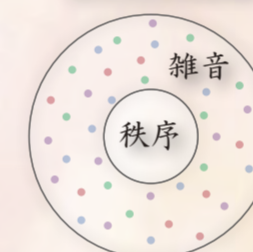
2 コンセプト

寄生＝雑音が秩序を生む条件である。

その構造を建築として翻訳した住まい

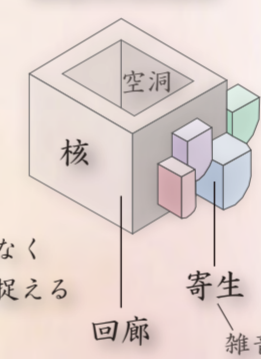
本計画は、セールの思想を建築に翻訳した住まいの提案である。中央の核＝空洞は、変わらず守られる秩序を象徴し、生活の基盤をなす。外周の回廊には必須機能が配置され、生命活動を支える器官の役割を果たす。そして、回廊の外側に付加される寄生ユニットは、雑音として家族の余剰や痕跡を外ににじませ、住まいを未完成のまま成長させる。

セールの理論



雑音を妨害ではなく
秩序の条件として捉える

提案する建築



4 実用性と運用システム

- ・構造は外周フレーム＋着脱可能ユニット。
- ・寄生は工場製作し、現場でつり込み。
- ・小寄生はDIY交換、大寄生は工務店施工。
- ・地域の「寄生ライブラリー」で循環する仕組み



つまり

完璧さではなく、不完全こそが帰属意識を生む

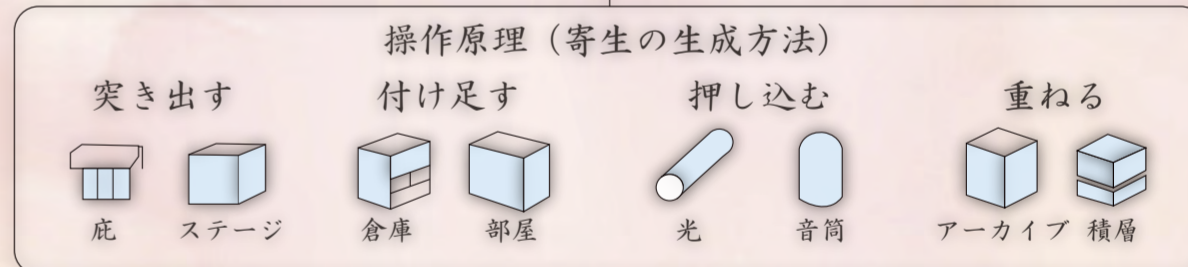
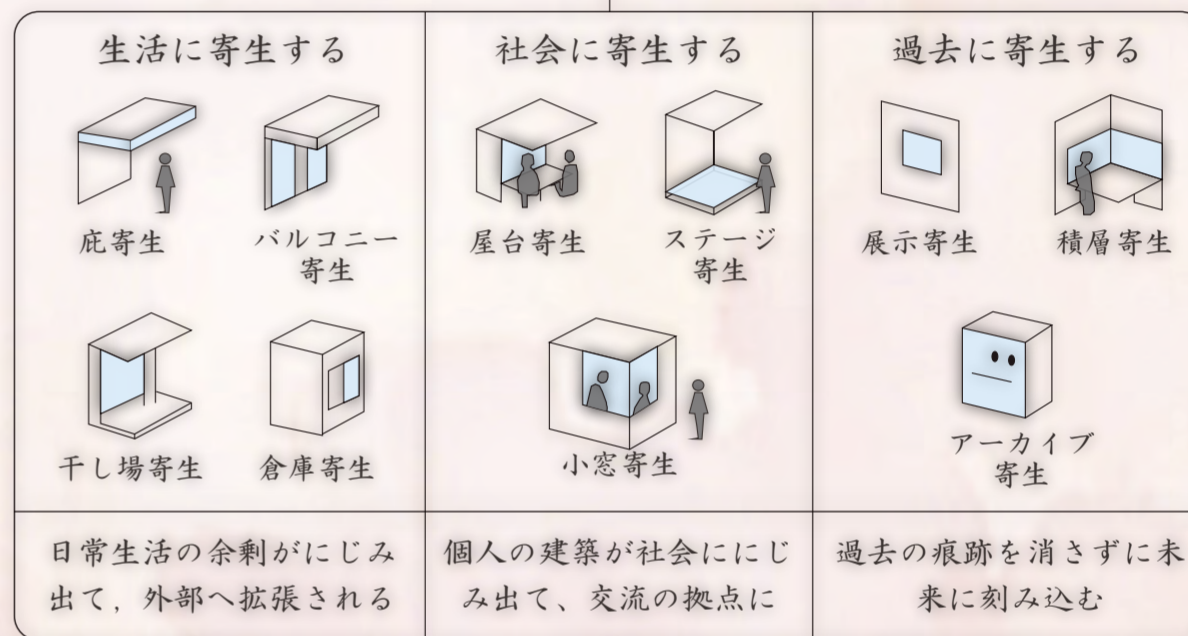
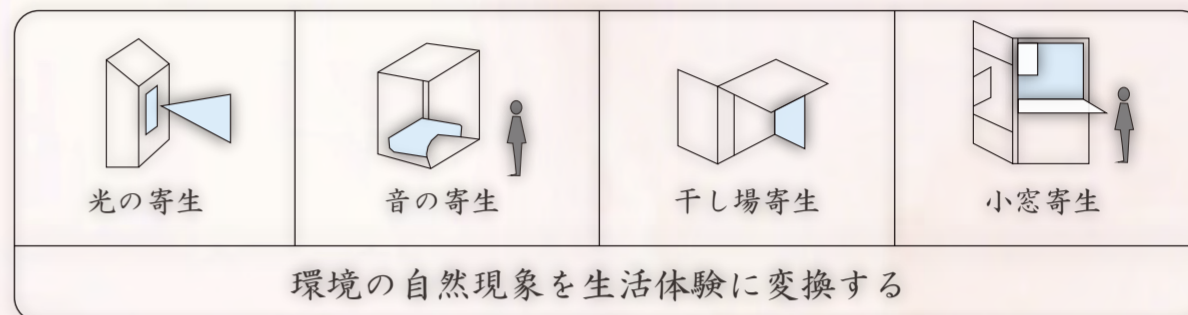
1-3 建築（帰りたい家）への翻訳

- ・核（空洞）＝秩序
二層吹抜の白い立方体は、静けさと普遍性を象徴。
- ・寄生（ユニット）＝雑音
小さな庇や子供部屋、干し場、落書きの壁等は、雑音や余剰として付着。
- ・有機体としての住まい
寄生が付いたり外れたりすることで、秩序が更新され続ける。

3 寄生カタログ

雑音のかたちを体系化する

暮らしや地域を映す寄生を「環境・生活・社会・過去」に分類する。



5 社会への展開

家から街へ、痕跡が拡張する仕組み

「寄生する住まい」は一軒の家にとどまらず、寄生を交換し合うことで地域全体に広がる。



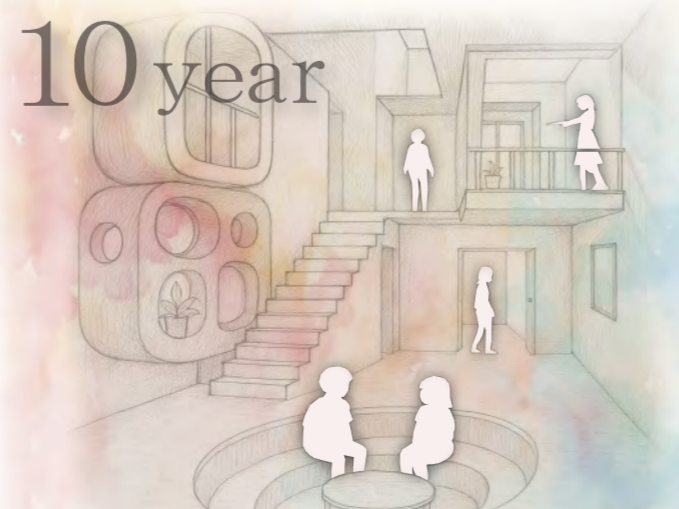
0 year



5 year



10 year



20 year



30 year



50 year

